

報告事項 1

●平成30年度事業実施報告（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

平成30年度の協会運営は、平成30年の定時社員総会で承認された事業計画と予算に則り、公益社団法人として、代表理事会長・理事副会長のもと理事会の執行機関として8つの「委員会」を設置し、各「委員会」ごとに責任を持って事業を推進し、全体を調整する機関として「総括運営委員会」を置き、当協会の理念に基づき、多岐にわたる協会の事業を具体的に効率よく実施し、収支ともほぼ予算内で行いました。

A. 公益事業

1. 日本写真協会賞の平成30年表彰及び平成31年選考【表彰委員会】

○平成30年対外発表及び表彰式、展示会の実施

- ・我が国の写真文化活動に顕著な功績が認められた内外の個人、団体をはじめ、前年に優れた作品・評論を発表された方々の中から2月22日に各賞の受賞者を選出し、3月16日の理事会で決定して、平成30年日本写真協会賞を、4月17日にカメラ記者クラブで対外正式発表しました。又、関係諸機関・一般紙報道機関や公共機関には、ニュースリリースを配布して広く写真愛好家に告知するべく広報活動にも注力しました。その後、表彰式を、6月1日午後5時30分より三田の笹川記念会館で開催し、引続き同館レストランで受賞者祝賀会パーティーを東京写真月間レセプションと兼ねて開催し200名の方々に参加いただきました。
- ・受賞作品展は六本木の富士フィルムフォトサロン東京で6月1日～7日に開催し、六本木という場所柄もあり、会員や写真愛好家以外にも多くの方々に受賞者の受賞内容を鑑賞いただきました。

○平成30年受賞者及び受賞理由（敬称略、五十音順）

☆作家賞： 潮田登久子

実直な眼差しと並外れた集中力と持続力、そして探究心の深さを、美しいプリントによって今の時代に蘇えらせた三部作『先生のアトリエ』『みすず書房旧社屋』『本の景色』は、長い時間をかけて撮影をされた力作であり、写真との向き合い方の真髓を教える。

☆新人賞： 奥山淳志

写真集・写真展「弁造 Benzo」は、北海道の原野にひとり暮らす開拓農民弁造さんの控えめで濃密な日常空間をめくりながら、写真表現の新たな地平を開いた。その確かな手応えを感じさせる作品に対して

☆新人賞： 佐藤岳彦

圧倒的な画質力、クオリティの高さによる高精細かつ美しい作品群は、従来の野生生物写真の既成概念を打ち破る。新しい野生生物写真家のスタイルを歩むその活動に対して

☆国際賞： サンドラ・フィリップス

サンフランシスコ近代美術館写真部門のキュレーターとして、長年に渡り「日本写真」の収集・研究・展示を継続的に行い、世界の写真史の中に日本の写真家を位置付け、広く紹介してきた活動に対して

☆功労賞： 斎藤寿雄

長年に渡り銀塩モノクロームプリントを中心に、数多くの写真家のプリントを手掛け作家の個性を最大限に引き出し、プリンターとして写真家の足元を支え続けてきた計り知れない功績に対して

☆功労賞： ニコンサロン

50周年を迎えたニコンサロンは、これまで4000回にも及ぶ展示を重ね、その「写真文化活動」は日本の写真家の育成に大きく貢献し、裾野を広げてきた。日本写真形成の重要な一翼を担ってきた稀有な活動に対して

☆学芸賞： 竹葉 丈

名古屋市美術館学芸員として、地元・名古屋の「芸術写真」や「新興写真」の掘り起こしを継続的に行

い、2017年の「異郷のモダニズムー満洲写真全史」展では、知られざる満洲写真のフロンティアを開拓した。日本写真史研究の充実に貢献をした活動に対して

○平成31年受賞者の選考

平成31年日本写真協会賞の選考は、恣意的な選考に陥らないよう、会員及びノミネーターから昨年末までに候補者の資料を広く収集し、平成31年2月21日、5名の選考委員による「選考会」を開催し、作家賞1名、新人賞2名、国際賞1団体、功労賞2名、学芸賞1名の受賞者を内定致しました。

これを平成31年3月15日開催の理事会で承認決定し、年度の改まった平成31年4月16日に对外発表。

○選考委員（敬称略、五十音順）

織作 峰子（写真家）、佐々木 広人（朝日新聞出版 雑誌本部長：前アサヒカメラ編集長）

佐藤 時啓（写真家）、土田 ヒロミ（写真家）、松本 徳彦（写真家）

○平成31年受賞者及び受賞理由（敬称略、五十音順）

☆作家賞： 石川真生

70年代から沖縄米軍基地周辺で懸命に生きる女性たちの姿を捉えた「FENCES, OKINAWA」「赤花 アカバナー 沖縄の女」をはじめ数々の個展や写真集を発表し続け、2018年丸木美術館が催した「石川真生 大琉球写真絵巻」展で今日までの沖縄、苦悩の歴史を綴った不屈の創作力に対して

☆新人賞： インベカワリ★

近刊「理想の猫じゃない」と同個展は、写真家とモデルという関係性のなかでも、これまでとは全く違う、「撮る-撮られる」を超えていて、その自由で闊達な表現に対して

☆新人賞： 峯水 亮

夜の海に潜りストロボとマクロレンズにより数ミリのプランクトンを鮮やかに捉えた驚異の写真集『Jewels in the night sea 神秘のプランクトン』で、高精細に幻想的世界を描くその活動に対して

☆国際賞： 「THE JAPANESE PHOTO BOOK:1912-1990」マンフレッド・ハイティング/金子隆一

511冊の写真集や3500点もの写真・図版を体系的に纏め上げ、日本の写真集が世界に与えた影響が歴史を辿りながら見えてくる。それは日本の写真史を知る上で優れた内容で、デザインも秀逸である

☆功労賞： 富岡畦草

近著「東京定点巡礼」を契機として、70年にも渉る東京や家族の成長記録を撮り続けた「定点撮影」の手法は、写真表現の原初的な特性を改めて明らかにした。その永年の写真活動に対して

☆功労賞： 原 直久

長年日本大学芸術学部で教鞭をとる傍ら、文化庁派遣芸術家在外研修員として、フランス、ドイツで研鑽を積み写真表現の原点は何かを探り、古典技法から最新の技術にまで制作に励み、海外の写真界にも影響を与えてこられた功績に対して

☆学芸賞： 港 千尋

2018年「風景論—変貌する地球と日本の記憶—」を上梓して、デジタル勃興時代以降の風景に対する概念を新たに提示し、今後の写真表現の領域を拡張させることを示唆する評論に対して

2. 「東京写真月間2018」の開催と「大阪写真月間2018」への協賛 【写真月間委員会】

今年で創設23年目を迎えた「東京写真月間2018」は、当協会及び東京都写真美術館共催、外務省、環境省、文化庁、東京都、駐日スリランカ民主社会主義共和国大使館の後援、44の企業の協賛、YUKI TORIIの特別協賛、その他多くの協力・特別協力を頂き、5月25日から約6週間にわたって開催し、延べ入場者数28,534人を数え、7月2日好評のうちに終了しました。また地方巡回展には、北海道東川町、札幌市、福島県、長野県小諸市、名古屋での巡回展示開催いたしました。

○国内展 「農業文化を支える人々」-土と共に-

総入場者数 8,300名

国内企画展では、各々の分野で「農」に携わり活動されている5人の写真家・カメラマンが4カ所の会場で写展を開

催。その後「写真の町」東川町文化ギャラリー7月7日～23日、福島テルサ11月15日～25日、札幌文化芸術交流センター12月1日～3日、を巡回致しました。

山岸伸&舞川あいく展 「農業女子に会いたい」

エプソンイメージングギャラリーエプサイト 5月25日～6月7日 入場者数 2,200名 (12日間)
農林水産省が新規参入の若手女性の就農者を増やす目的で2013年にスタートさせた「農業女子プロジェクト」に参加する全国各地の女性を、両氏が取材・撮影した作品。 ※6月2日 ギャラリートーク開催 (2回)

橋本紘二展 『農』は人を癒やす

キヤノンオープンギャラリー1 5月29日～6月26日 入場者数 3,500名 (25日間)
都会生活のストレスが癒され、自然の中で働くことで自分が浄化され、心が癒される姿を丹念に撮影した作品

MOTOKO展「田園ドリーム2018」

オリンパスギャラリー東京 6月1日～6日 入場者数 1,800名 (6日間)
若手農家やお酒の蔵元など地域の人々たちのコミュニケーションを深め、いつしか「ローカルフォト」というプロジェクトに進化し小豆島、神奈川県真鶴町、山形県など多くの町に通った心温まる写真展。 ※6月3日ギャラリートーク、セミナー開催

網野文絵展 「撮れたて野菜」

ピクトリコショップ&ギャラリー表参道 6月6日～17日 入場者数 800名 (11日間)
野菜をもっと違う角度から見てみると、可愛らしさや面白さを若い写真家の目を通して表現した新鮮で明るい写真展。

○国際展「アジアの写真家たち2018 スリランカ」

総入場者数 7,648名

今年で13回目を迎え、近年発展めざましいスリランカ民主社会主義共和国を“The Sacred and Beautiful Island—Sri Lanka”のタイトルにて4カ所で開催し、スリランカ写真協会の協力を得て15名の写真家・フォトグラファーによる同国の風物、伝統文化、人々の暮らしぶりの写真を展示。

「The Sacred and Beautiful Island—Sri Lanka」

- 1) プレイスM 5月28日～6月3日 入場者数: 約400名 (7日間)
展示写真家: Chandrasena Perera / Inoka Dias / Nayomi Thomas (3名)
- 2) ニコンプラザ新宿 THE GALLERY 1 5月29日～6月4日 入場者数: 約1500名 (6日間)
展示写真家: Hiranthi De Silva / Mahinda Jeevananda / Marcel Bandaranalke / Mohan Gurusinghe (4名)
- 3) キヤノンオープンギャラリー2 5月29日～6月26日 入場者数約3,500名 (25日間)
展示写真家: Henry Rajakaruna / Panduke DeSilva / Ravi Ranasinghe / Shehan Trek (4名)
- 4) ソニーイメージングギャラリー 6月1日～7日 入場者数: 約2,200名 (7日間)
展示写真家: Pandula Bandara / R H Samarakone / Ranjani Perera / Sameera Kotelawala (4名)

※アジアの写真家たちスリランカ交歓パーティー 6月4日

場所: 日本橋 スリランカ料理 KANDY 参加者: スリランカ写真家 8名 ギャラリー関係者他 40名

○「写真の日」記念写真展 2018

みどりのiプラザ 6月22日～26日 入場者数1200名 (4日間)
応募人数835名、応募枚数2,051点の中から外務大臣賞・環境大臣賞・優秀賞・協賛会社賞 (53社) 合計251点展示。
選考委員: 海野 和男、出水恵理子 (公社) 日本写真協会 表彰式: 6月23日 100名

「写真の町」東川町文化ギャラリー7月7日～23日、富士フォトギャラリー新潟7月28日～8月10日、小諸市立小諸高原美術館市民学芸室8月21日～9月2日、HCLフォトギャラリー名古屋9月26日～10月9日、富士フィルムフォトサロン大阪11月2日～8日、福島市振興公社・福島テルサ11月15日～25日、札幌文化芸術交流センター12月1日～3日の7カ所を巡回しました。

※著作権セミナー 6月23日 緑と水の市民カレッジ3F 講師: 佐々木広人氏 受講者45名

○「1000人の写真展 《わたしのこの一枚》」

ヒルトピアアートスクエア 6月7日～11日 入場者数400名 (5日間)

※世界各国に配布する総務省発行統計本「STATISTICAL HANDBOOK OF JAPAN 2018」に9点選出掲載。

○日本写真協会賞受賞作品展

入場者数 8,879 名 (7 日間)

日本写真協会賞受賞作品展は6月1日～7日、東京六本木の富士フィルムフォトサロンで開催しました。

6月2日 潮田登久子氏と島尾伸三氏によるギャラリートーク開催。参加者 20 名

○東京写真月間 2018 特別共催事業

緑と水の市民カレッジ 3F

「生きもの写真リトルリーグ」写真展 みどりの i プラザ 5月31日～6月5日 入場者数 350 名 (5 日間)

主催：生きもの写真リトルリーグ実行委員会 後援：パナソニック(株)

「G サミット 2018」写真展 みどりの i プラザ 6月8日～20日 入場者数 1,400 名 (11 日間)

主催：日本フォトコンテスト協会

○レセプション

6月1日 午後6時30分より三田の笹川記念会館レストランで、日本写真協会賞受賞者祝賀会、叙勲・褒章受賞者祝賀会と東京写真月間オープニングセレモニーを兼ねて開催し 200 名の方々に参加いただきました。

○図録の発行

平成30年に実施した「東京写真月間 2018」を総括した図録を作成して、ご協力いただいた関係機関に配布すると共に関係各国大使館や図書館、美術館、ギャラリー、行政府等の公共機関にも無料提供。

又、「写真の日 記念写真展」入賞者等購入を希望する写真愛好家には一冊 2,000 円で頒布しました。

この「東京写真月間 2018」の開催にあたり、外務省、環境省、文化庁、東京都、駐日スリランカ民主社会主義共和国大使館のご後援、各企業、団体からのご協賛、ご協力をいただきました。

○「大阪写真月間 2018」を共催

大阪の写真文化の向上を目指す「大阪写真月間」は今年で17年目を迎え、下記内容の写真展等を実施しました。

- 1) 小学生のための写真教室「親子で挑戦!モノクロ写真教室」 3月31日 ビジュアルアーツ専門学校
参加人数：小学生 17 名とその保護者、モノクロフィルムフィルム現像プリント体験。協力：富士フィルム(株)
- 2) 写真家 150 人の一坪展 5月25日～6月11日 7会場 参加 123 名
ニコンプラザ大阪、キャノンギャラリー大阪、富士フィルムフォトサロン大阪、オリンパスギャラリー大阪、αプラザ(大阪) ギャラリースペース、リコーイメージングスクエア大阪
- 3) 大阪写真月間ハイスクールフォトアワード 2018
6月7日～13日 ニコンプラザ大阪 THE GALLERY 参加 37 校 318 作品
平成 28 年度から日本写真協会会長賞を設定：6月9日 和歌山県立神島高等学校 岡田あかり氏に授与
- 4) 写真展「私のこの一枚」 6月7日～12日 イロリ村 [89] 画廊 455 作品
- 5) 企画展「旅と写真」三田崇博写真展「World Heritage Journey」6月2日～8日 ビジュアルアーツギャラリー
- 6) 三田氏講演会 6月2日 ビジュアルアーツ新館 7B 教室
- 7) シンポジウム「写真家がゆく新たな視界を求めて」 清水哲朗氏 参加 75 名 ビジュアルアーツホール

3. 国際交流活動 【国際交流委員会】・【写真月間委員会】

1) 国際展 「アジアの写真家たち 2018 スリランカ」

スリランカ国から国際展出展の写真家 8 名が来日し、日本の写真関係者 40 名と交流。

2) 日本・ロシア文化交流写真展「サハリン」開催 4月5日～11日

アイデムフォトギャラリー シリウス

主催：サハリン州文化省、日本写真協会、日露青年交流センター

協力：在ユジノサハリンスク日本領事館 後援：在ロシア連邦大使館

出展者：オリガ・クリコヴァ、ドミトリー・コヴァレフ、ジナイダ・マカロヴァ、ダニイル・デムキン、アレクサンドル・ガイヴォロン、マクシム・フォードロフ、キリル・ヤシコ、アリョーナ・ニコラエヴァ、マリヤ・ゴレロヴァ、飯田眞秀、伊藤雅章、狩野剛史、田代一倫、戸川覚

3) 日本・ロシア文化交流写真展「東京」開催 5月25日～7月15日

サハリン島文学記念館 (チェーホフ記念文学館)

4月3日～10日までサハリンから来日した9名の写真家による「東京」をテーマにした写真展を開催した。

4) 日本写真協会賞新人賞の受賞作品を海外で紹介

- ・新人賞受賞作品巡回展シリーズ第3弾 2013～2015(Looking at Borders) 西野壮平、由良環、齋藤陽道、清水哲朗、石川竜一、中井精也
ロシア・チェリヤビンスク (郷土歴史博物館) 8月10日～9月20日
- ・新人賞受賞作品巡回展シリーズ第1弾 2007～2009(Crown on the Earth) 北野謙、吉村和敏、石川直樹、前川貴行、屋代敏博、小川康博、佐藤信太郎
コロンビア 1) メデシン (ポル・バルウエル現代ギャラリー) 7月6日～27日、2) ボゴタ (セデ・ボサ地区大学) 7月31日～8月31日、3) ボゴタ (サント・ドミンゴ大学) 9月17日～22日

5) 日中国交45周年 第5回「中秋節 IN 東京2018」

湯 徳勝 (タン・デシェン) 写真展「中国京杭大運河」 9月25日 椿山荘新館ホール
湯 徳勝氏との懇談会 9月27日 日本写真協会会議室
出席者：湯 徳勝、井岡今日子、大平温、尾畑正光、神谷京子

6) サンドラ・フィリップス氏 (サンフランシスコ近代美術館名誉学芸員) 講演会開催

「サンフランシスコ近代美術館からみた日本の写真」 9月27日 日本写真協会会議室
5月30日 国際交流基金ホール「さくら」参加者80名主催：日本写真協会、国際交流基金
世界の写真史の中に組み込んだ日本の写真の歩みを語っていただいた。

7) ハンガリー写真関係者との懇談会 10月3日 日本写真協会会議室

出席者：カルドス・タマーシュ (写真家)、トート・イシュトバーン (写真評論家)、コバーチ・ミクローシュ (ブタペストキヤノン勤務)、田崎龍一 (日本・ハンガリー友好協会理事)、大平温、尾畑正光、横尾紀彦、佐藤景子 (PSJ)

4. 写真・映像教育の推進 【写真・映像教育推進委員会】

平成18年3月にスタートした写真・映像教育の推進事業は、子供達に写真の楽しさ、面白さなど感動と親しみを体験してもらうことを目的に実施し、13年間で299ヶ所、13,482名が参加しました。

平成30年度実施状況

今年度は記録的な猛暑と台風の影響により、参加者の間際のキャンセルなどがありましたが、30年度トータルとしては前年並みの25ヶ所、1,139名の参加を得ました。

「ピンホール写真体験教室」：13ヶ所 参加人数580名 / 「デジタル写真体験教室」：12ヶ所 参加人数559名

■平成30年度 写真体験教室実施状況

	会場・主催者	内容	開催日	対象	参加人数
1	栃木子ども総合科学館	ピンホール	4月7日	幼～小6の親子	85
2	世田谷区立松沢小同窓会	デジタル	4月22日	小1～小6	72
3	小平中央公民館	デジタル	4月28日	小1～小6	27
4	多摩六都科学館	デジタル	5月27日	小1～中1	23
5	中萩中小学校	デジタル	5月27日	小1～小6	28
6	小金井第三小学校	デジタル	5月30日	小3,4,6	33
7	川崎市立木月小学校2年 生活科	デジタル	6月19,20,28日	小2	48
8	サイエンスヒルズ小松	ピンホール	7月22日～23日	小1～小6の親子	67
9	町田市フォトン	ピンホール	7月24日～25日	未就学～小6,大人	24
10	世田谷区リサイクル千歳台	デジタル	7月25日	小1～小5の親子	38
11	酒田市土門拳記念館	ピンホール	7月28日	小1～中3の親子	62
12	秦野市本町公民館	ピンホール	7月29日	小1～小6	13
13	熊本市写真の七光	ピンホール	7月29日	未就学～中1	6
14	南足柄市中部公民館	ピンホール	7月31日	小2～中2	35
15	日比谷花壇大船フラワーセンター	ピンホール	8月4日～5日	小1～小6	32
16	荒川区立赤土小にこにこスクール	ピンホール	8月7日	小1～小6	18
17	小平第四小学校	ピンホール	8月10日	小1～小6	60
18	日比谷花壇大船フラワーセンター	デジタル	8月11日	小5～大人	3

19	府中市生涯学習センター	ピンホール	8月17日	小1～小6	26
20	名古屋市科学館	ピンホール	8月25日～26日	小1～小6の親子	130
21	京都市立朱雀第三小学校	デジタル	10月9,10,11日	小3～小6	217
22	愛日小子どもひろば ☆	デジタル	11月12日	小1～小5	17
23	柏木小学校 デジ ☆	デジタル	12月11日	小1～小4	28
24	落合第五小学校 デジ ☆	デジタル	3月7日	小1～小5	25
25	横浜市子ども植物園	ピンホール	3月7日	小1～小4の親子	22
				合計	1,139

1) ピンホール写真体験教室

写真の歴史、ものの映るしくみ等を説明し、各自ピンホールカメラを組み立て、光の性質を理解しながら銀塩方式の写真体験をしてもらいました。東京、神奈川など首都圏の教育支援事業としてスタートしましたが、写真・映像教育への関心は大きな広がりを見せています。首都圏以外では栃木子ども総合科学館、酒田市土門拳記念館、名古屋市科学館、石川県写真館協会の協力を得てサイエンスヒルズ小松で小学生の親子を対象とした教室を実施しました。

2) デジタル写真体験教室

写真の原理は勿論ですが、物事をよく観察することの大切さや、写真の持つ多様な力の中から自分の気持ちを表す自己表現力・コミュニケーション力を如何に引き出すかに重点を置いて実施しました。併せて、断りもなく他人の顔を写さないとか、花壇等に勝手に踏み込まない等の撮影マナーや、著作権、肖像権等の法的権利についてもその重要性を学んでもらいました。30年度の特記事業としては、文化庁の「文化芸術による子供の育成事業」を京都市立朱雀第三小学校の要請により、「デジタル写真体験教室」を行いました。参加児童は3年から6年生まで各学年2クラス総勢217名。授業2コマと休憩時間計110分を使い、各クラスごと（約28名）に実施しました。児童は校内で自由に色々な被写体を追いかけて、大伸しの四切プリントに感動し、撮影意図についても的確な意見発表をするなど、楽しい貴重な体験ができた大変好評でした。

5. 日本写真年鑑の発行 【出版広報委員会】

1958年（昭和33年）に創刊の、「日本写真年報」は編集発行业を《不特定多数の利益の増進》に資する公益事業とすべく年間の写真活動が長年にわたって継続集約された国内唯一の資料となっており、写真関係者はもとより、諸官庁、報道機関、教育機関、美術館、図書館など広く各方面より好評を得ています。2013年版から「日本写真年鑑」と名称変更し、約2倍に増ページして従来の写真業界の年報としての機能に年間を通じて写真界の幅広い情報を掲載。さらに一般読者に興味を持っていただけるような話題を盛り込み、2017年の写真活動状況をつぶさに記録すると共に、将来を展望する内容を追加。本書によりすべての読者にとって、写真を通じて新たな発見が得られるよう2018年版・第61巻を6月1日に発行しました。

B. 共益事業

1. 会報の発行 【出版広報委員会】

30年度は、季刊として年4回、5月・8月・11月・2月に473号～476号を発行し、各時点における協会の活動や今後の計画、写真文化情報などを紹介しました。

・主要掲載記事

473号：「日本写真協会賞受賞者決定」「東京写真月間」「大阪写真月間」開幕、「日露文化交流」、「CP+2018」他

474号：「作家賞潮田登久子さん」「功労賞斎藤寿雄さん」「東京・大阪写真月間」「サンドラ・フィリップス氏講演」

475号：「新人賞奥山淳志さん・佐藤岳彦さん」「学芸賞竹葉丈さん」「功労賞ニコンサロン」「フォトキナ2018」他

476号：「アメリカ近代写真の歴史と意義」「写真月間2019」「故・高橋延明氏の仕事」「凸版ミュージアム」他

2. 日本写真協会賞受賞祝賀会 兼 叙勲・褒章祝賀式典 兼 東京写真月間レセプション 開催

【総務委員会・東京写真月間委員会】

6月1日に笹川記念会館において、日本写真協会賞表彰式及び当該年度の写真界における叙勲・褒章祝賀式典を行ない、引続き受章祝賀会と東京写真月間レセプションを共同開催。会員の親睦を図る意図も含め「写真の日」事業の一環として開催しました。200名の方々に参加いただきました。

C. 法人運営事業

1. 公的機関が主催する写真コンテスト・イベントへの参加協力 【総務委員会】・【写真月間委員会】

公益社団法人に移行後、公的機関等からの写真コンテスト・イベントの相談及び協力依頼に対応。

1) 「Tonya EXPO フォト T コンテスト」に募集・審査・表彰式に協力

主催：Tonya EXPO 実行委員会・岐阜県・岐阜市 EXPO:7月15日～16日 表彰式：16日

2) 第34回「写真の町東川町フォトフェスタ」へ事業協力

北海道、東川町主催の第34回「写真の町・東川町フォトフェスタ」(8月2日～7日)に東京写真月間2018で開催した「国内企画展」「写真の日記念写真展」の展示作品を東川町文化ギャラリーへ巡回して協力しました。

3) 千葉県警察本部ふれあいフェスタ2018「ポリスアートフェア」出展写真審査・展示に協力 8月16日(千葉県警中央署)

4) 第1回MICE開催地日本の魅力フォト・動画コンテスト募集・審査に協力

主催：日本政府観光局 JNTO 後援：観光庁、日本写真協会、日本コンベンション協会他

募集締切：平成31年1月15日 審査：24日 表彰式：2月28日 東京国際フォーラム(有楽町)

2. 社員総会・理事会・総括運営委員会の開催 【総務委員会】

4月20日の第1回通常理事会において、平成29年度事業報告、貸借対照表および損益計算書の承認、定時社員総会開催内容を決定いたしました。6月13日に平成30年度定時社員総会を開催、議決権者1,676名、議決権行使897名(出席35名を含む)で平成29年度事業報告、平成30年度事業計画・予算を報告、平成29年度決算、役員辞任に伴う改選、役員報酬総を決定。総会終了後団体賛助会員懇談会を開催し意見交換を行った(役員17名、賛助会員18団体参加)。平成31年3月15日に第2回通常理事会を開催、平成31年度事業計画、平成31年度予算、2019年日本写真協会賞決定を承認致しました。また、奇数月の5月15日、7月18日、9月18日、11月20日、1月15日、3月12日の6回、2ヵ月間の事業報告及び財務状況を代表理事会長、理事副会長に各委員会委員長が報告する総括運営委員会を開催。

3. コンプライアンス 【コンプライアンス委員会】 【総務委員会】

平成31年3月12日 コンプライアンス委員会を開催(大平業務執行理事、上田業務執行理事、井沢理事、松本理事)し、平成30年度の公益事業に関し点検及び、政府の働き方改革に沿って当協会職員の就業規則についての点検を実施。

4. 展覧会等の後援 【総務委員会】

当協会は公的機関や学校教育機関、マスコミ、写真関係団体等が主催し、内容が文化、教育、国際交流に寄与する写真展等に対して後援・協賛・協力を行っていますが、平成30年度は以下の催事をバックアップしました。

	申請者(≠主催者)	写真展名	会期・場所
1	日本山岳写真協会	2018年度日本山岳写真協会展	8月31日～9月8日 東京都美術館 公募展示室・講堂 2019年3月予定 京都市美術館本館
2	日本写真学会・写真感光材料工業会	「2018年度 PHOTONEXT 技術アカデミー」【協力】	6月5日 パシフィコ横浜
3	株式会社プロメディア	PHOTONEXT 2018 【協力】	6月5日～6月6日 パシフィコ横浜
4	朝日新聞社	世界報道写真展2018	6月9日～8月5日 東京都写真美術館他、ハービスHALL、立命館大学アジア太平洋大学、立命館大学(京都)、立命館大学(滋賀)
5	長野県阿智村	第21回熊谷元一写真賞コンクール	応募締切平成30年10月1日、11月17日表彰式

	申請者（≠主催者）	写真展名	会期・場所
6	相模原市総合写真祭フォトシティさがみはら実行委員会	相模原市総合写真祭フォトシティさがみはら 2018	4月1日～平成31年3月31日 相模原市民ギャラリー他
7	東川町写真の町実行委員会	第34回東川町国際写真フェスティバル（フォトフェスタ2018）	8月4日～8月29日 東川町町内一円
8	一般社団法人 東京都民間保育園協会	「TOKYO 保育フォトコンテスト」 「TOKYO 保育フォト展」	応募期間：5月1日～6月25日 TOKYO 保育フォト展：8月25日～26日 東京国際フォーラム、9月8日 学園都市センター、11月20日 江戸川区総合センター
9	日本放送協会学園	第2回NHK学園「四季の写真展」	8月22日～8月27日 みなとみらいギャラリー
10	一般社団法人日本写真文化協会	「第65回全国展フォトコンテスト」	平成31年5月28日～6月4日 東京都美術館他 富士フィルムフォトサロン札幌、富士フィルムフォトサロン大阪、富士フィルムフォトサロン福岡、ポートレートギャラリー
11	Tonya EXPO 実行委員会	Tonya EXPO フォト T コンテスト 【協力】	応募期間：6月1日～6月30日 結果発表：7月7日 EXPO：7月15日・16日 岐阜駅前問屋町一帯
12	公益社団法人日本広告写真家協会	第10回「全国学校図工・美術写真公募展」	7月10日～11月12日（応募受付）、展示：東京都写真美術館地下1階展示室（平成31年3月2日～17日）
13	日本光画会	「第53回日本光画会写真展（光展）」	2019年4月10日～4月16日東京都美術館 他開催、大阪市立美術館ミッドリッチセンター、高知県立美術館、四日市市文化会館、スペースアくだまつ
14	写楽会	「写楽会合同写真展示会」	9月4日～9月9日 兵庫県西宮市立北口ギャラリー
15	公益財団法人 土門拳記念館	第13回写真展「わたしのこの一枚」 【協力】	10月4日～10月24日 土門拳記念館
16	(株)クレヴィス	写真展「木村伊兵衛 パリ残像」	10月24日～11月5日 日本橋三越本店新館7階
17	秋山郷・苗場山写真展実行委員会	秋山郷・苗場山写真展	9月12日～17日 長野市芸術館、10月3日～8日 上田市交流文化センター、津南町、栄村
18	日本政府観光局	第一回 MICE 開催地・日本の魅力 フォト・動画コンテスト	募集期間：9月18日～2019年1月7日
19	にっぽん大使たちの視線写真展実行委員会	にっぽん大使たちの視線 2018 写真展	10月10日～15日 六本木ヒルズ森タワー他ひょうご国際プラザ、名古屋セントラルギャラリー、横浜、東川町、
20	日本神輿協会	第十六回「大江戸神輿まつり IN 木場公園」写真コンテスト【協力】	10月7日都立木場公園
21	一般社団法人カメラ映像機器工業会	CP+（シービープラス）2019【協力】	2019年2月28日～3月3日パシフィコ横浜、大さん橋ホール
22	「一度きりの写真展」10+1 実行委員会	「一度きりの写真展」10+1	11月6日～12日ギャラリー-HIRAMA
23	NHK学園	第29回NHK生涯学習写真展	2019年2月8日～14日 富士フィルムフォトサロン 東京
24	(株)クレヴィス	田沼武能写真展 東京わが残像 1948-1964	2019年2月9日～4月14日 世田谷美術館
25	フォトグループいぶき	第8回「四季のいぶき」展	2019年4月5日～11日富士フィルムフォトサロン東京
26	(株)クレヴィス	大石芳野写真展 戦禍の記憶	2019年3月23日～5月12日 東京都写真美術館
27	一般社団法人 東京都民間保育園協会	第2回「TOKYO 保育フォトコンテスト」 「TOKYO 保育フォト展」	応募期間：平成31年1月7日～2月28日 TOKYO 保育フォト展：会場調整中
28	日本ハンガリー友好協会	日・ハンガリー外交関係開設150周年記念 バザール・イヴェラ写真展「ブダペスト」	4月4日～10日 アイテムフォトギャラリー「シリウス」
29	相模原市総合写真祭フォトシティさがみはら実行委員会	相模原市総合写真祭フォトシティさがみはら 2019	4月1日～平成32年3月31日 相模原市民ギャラリー他
30	日本山岳写真協会	2019年日本山岳写真協会展	8月31日～9月8日 東京都美術館他巡回
31	(株)プロメディア	PHOTONEXT2019	6月18日～19日 パシフィコ横浜
32	日本写真学会、写真感光材料工業会	PHOTONEXT 技術アカデミー	6月18日 パシフィコ横浜
33	世田谷美術館	奈良原一高のスペインー約束の旅	11月23日～2020年1月26日 世田谷美術館
34	長野県阿智村	第22回熊谷元一写真賞コンクール	応募締切2019年10月1日、11月16日表彰式
35	日本写真家連盟	第33回「四季の彩り」展及び第9回「公募展」	2020年1月19日～26日東京都美術館

附属明細書

該当事項がないため、記載を省略しております。

以上